

◆コロナウイルスの感染が拡大しているなか、あちらこちらで地震があつて、日本列島がどうなっているのかと叫びたくなる。近年はあまり出歩くこともなく、いつものスーパーや近くの商店街に行つて食べ物を買ひ足すぐらいなのに、外出しないように言われると、お花見や新緑の自然を散策したくなつてしまふ。が、一歩外に出るとウイルスが飛び散っているような気がするので、一日も早く終息して普通の生活になることを願ひながら、静かに待っている。

市川茂子

◆ひと月以上架かつていた足場ですが、昨日やつとベランダ側が撤去され、そうになると、住まい四階のベランダにすぐ空なので、何か不安感があります。元にもどただけなのに、足場で守られていたような。台風風の風で一部の棟の屋根が飛んだことから、全棟で屋根の葺きなおし工事が行われ、その足場でした。昨日は緊急事態が全国で解除され、何度も返却期限が延長された「レ・ミゼラブル」も、窓口が再開され、返却できました。

小野澤繁雄

◆テレビもラジオも新聞も毎日毎日コロナコロナである。いい加減うんざりしているが、こと命に関わることなので、とにかく3密を避けて感染しないように自分を守らないといけない。マスクは冬の季語なのに、夏の入りがけなのに、町中マスクであふれている。実に異様な光景なのだが、みんながそうなので異様とは感じられなくなった。考えてみればそれもまた恐ろしいことである。

神村ふじを

◆世はまさに緊急事態、自粛の日々ですが、「暇」とは限りません。二階にいる亡姉の夫（九十五歳）を、仕事を持つ姪と介助しています。一四段の階段を一日に数回往復して運動量は確保していますが、この機にと構えた私の終活や読書が滞っています。

河村郁子

◆「新型コロナは枕詞のようになったな」などと呑気なことを言っていたら、対岸の火事ではなくなつて来た。治療薬のない疫病が猛烈な勢いで世界中にはびこるとは誰が予想しただろう。アジアやアフリカではHIV、マラリア、結核で毎日七千人が命を落としているという。新型コロナはこれに拍車をかけるだろう。深刻だ。が、私は畑を耕し、ジャガイモ、ネギを植え、ニンジンの種を蒔くという、いつもの春の仕事に専念するしかないと思つている。一日も早い終息を願つて。

新野祐子

◆会員の皆さんの多くも経験されたことと思うが、新型コロナウイルスの感染防止のため不要不急の外出は控えるように、という政府からのお達しがあった翌日だったか、スーパーマーケットに買い物にいったら驚いてしまった。多くの食品の棚ががらなのである。現在はかなり元通りに近いが、それでもレトルト食品、インスタント食品、袋菓子の棚は相変わらず品薄である。なぜだろうと不思議に思っている。

松井淑子

◆「世の中にはおかしい人もいる」——そう誰もが目を伏せながら口にすることを幼いころから聞きかじってはいたし、頭では理解しているつもりだった。ただ、私は「おかしい人」が自分のすぐ近くに存在するとは思いが及ばなかった。昨年入社してきた男性スタッフは、おかしい人だったのだ。私に対して明らかに悪意を示し、暴言を怒鳴り散らす。しかも、その悪意を明らかに楽しんでいるから質が悪い。私はついにメンタルクリニックの扉を叩いた。自分の中にある強いと思っていた何かが崩れ、人間不信の一步手前をヨタヨタと歩いている。崖っぷちだ。負けてたまるか、と思う気持ちに身体が追いつかず、力が入らない。時間が解決してくれると信じている。良くなったり悪くなったりしながら、きつと、以前のような自分を取り戻せると信じている。

山内裕子

